

令和3年度中間期学校評価表										愛南町立城辺中学校										No.1					
重点目標		評価指標及び目標値		評価		学校による考察<◇>及び改善策等<◆>										評価資料		到達率 〔肯定評価(3,4)の割合〕		アンケート結果(人数)					
										A	B	C	D	?											
										A:よくあてはまる B:あてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない ?…判定できない															
生徒指導の徹底と健全育成	生徒理解の充実	生徒理解に努め、生徒の課題に積極的に対応している。 目標値:アンケート結果80%以上達成	中間期	A	◇生徒指導部会において、生徒の生活情報を共有しながら、組織的に対応することを心掛けてきた。そのことが、問題が大きくなる前に解決している要因であると考えられる。また、定期的教育相談やチャンス相談、毎月実施している学校生活アンケートから、生徒の抱える不安や悩みに寄り添いながら対応をしていることが、高い評価につながっていると考えられる。 ◆保護者、生徒においてC・D評価が若干数いることを踏まえ、人間関係等で悩みを抱える生徒に気付く感度を高め、生徒に寄り添い迅速に対応すること、今後も継続して取り組んでいく。										教職員	1	100%	15	6	0	0	0			
															保護者	1	97%	30	81	4	0	0			
															生徒	1	96%	85	49	4	1	0			
		自立心や自律性、規範意識など豊かな人間性を持った生徒を育てている。 目標値:アンケート結果80%以上肯定	中間期	A	◇全体的に落ち着いた雰囲気で学校生活を過ごしている。全校一斉教育相談や毎月実施する生活のアンケートからも、楽しく伸び伸びと学校生活を送っていることが分かる。また、行事等を通して、集団の中での自己の在り方も考えることができるようになっていくことが高い評価につながっていると考えられる。 ◆保護者からは地域での挨拶が少し弱くなってきたという評価がある。学校外でのけじめについても触れる機会を設けていく。 ◆生徒が安心して過ごせる雰囲気を保つために、引き続き、教職員全員で生徒を見守る体制を維持していく。 ◆学級や学年、部活動など、様々な集団の中で生徒の自浄力や自治力を、更に高める指導を継続していく。										教職員	2	100%	7	14	0	0	0			
															保護者	2	94%	29	78	7	0	1			
															地域住民	1	97%	12	24	1	0	1			
	温かい集団づくり	いじめのない、認め合い、支え合う集団づくりができている。 目標値:アンケート結果80%以上肯定	中間期	A	◇各行事(修学旅行や集団宿泊研修)を通して、学級や学年で協力して活動し、目標を持ってよりよい集団づくりを進めることができた。 ◇ライン等のSNSの利用について、各家庭でルールを定めているが、使い方や時間などについてルーズな生徒がいる。 ◇不登校傾向にある生徒に対して、SSWやSCをはじめ、多くの方と連携して対応することができている。 ◆保護者、生徒におけるC・D評価は、トラブルやいじめにつながる人権意識が低い言動が存在するということである。日頃からの生徒の様子に目や気を配り、初動を適切に行い対処していく。また、道徳科を要したすべての教育活動で、生徒の発達段階に応じた適切な指導を行っていく必要がある。 ◆特にSNSの利用について、トラブルやいじめにつながるもののないよう日々の指導を継続するとともに、家庭との連携を図り、見守り体制をより一層強化していく。										教職員	3	95%	3	17	1	0	0			
															教職員	4	100%	13	8	0	0	0			
															保護者	3	86%	21	76	16	0	2			
															保護者	4	97%	56	55	2	2	0			
															生徒	3	100%	108	31	0	0	0			
															生徒	4	96%	97	36	5	1	0			
	人権・同和教育の推進	学校生活を通し、人権意識の高い生徒を育てている。 目標値:アンケート結果80%以上肯定	中間期	A	◇生徒は、落ち着いた雰囲気で学校生活を過ごしていると考えている。 ◆学校内外での生活で、立場が強いものや年長者が弱者を笑いものにしたり、他人のことを面白おかしく話して楽しんでいたりする風潮をなくしていかなければならない。 ◆教職員から、生徒の人権意識の低さや人権教育が後回しにされているのではないかという意見があるため、率先した研修を全員で行い、「できている」と感じている生徒の悪口やいじめが野放しになっている状態を認め、繰り返し意識改革をしていかなければならない。 ◆SNSやメールでの誹謗中傷、悪口等のいじめを受けた側が、何の気兼ねもなく暮らしていけるようにしていくことは、同和問題も同じであるとする。										教職員	5	85%	5	12	3	0	0			
															保護者	5	94%	25	80	6	1	3			
															地域住民	3	100%	8	20	0	0	10			
															生徒	5	99%	101	36	2	0	0			
	特別支援教育の推進	障がいのある生徒に対して、学校全体で支援している。 目標値:アンケート結果80%以上肯定	中間期	A	◇生徒は、学校生活の中で、特別支援の学級の生徒たちと快く付き合っていると思う。 ◇障がいを理解し、思いやりの心で関わろうとする意識を持った生徒が多い。行事や交流の授業においても、協力して活動していた。 ◆昨年に比べ、目に見える障がいのある生徒は目立たないが、実際には、去年より個々の障がいの悩みや問題が細分化、深化している。一人一人を大切にしてい、皆で情報を共有していかなければならない。										教職員	6	90%	7	12	2	0	0			
															保護者	6	95%	38	69	6	0	2			
地域住民															4	100%	6	19	0	0	13				
生徒															6	99%	108	30	1	0	0				
学校運営協議会委員の所見		・非行や事故、大きなトラブルもなく平穏な学校になっている。3年生が落ち着いていることが大きいように思う。 ・教職員の意見に「学年部以外の状況が分かりにくい」とあるように、「生徒指導の徹底」ということについては、今一步の感がある。 ・同じことを指導するにしても、教師によって「言葉」や「熱」が違うため、生徒の受け取り方が変わってくるということがある。 ・生徒指導の徹底の中で、学校でも場に応じた言葉遣いや携帯電話、ネットの良識ある使用方法などについて指導していただきたいが、主には家庭で指導をするべきだと思う。 ・全てがA評価で、日頃の先生方の関わりに感謝です。しかし、「学校が楽しくない」や「いじめ」に対する回答が気になる。アンケート結果から見ると、生徒より保護者の方が強く感じているのではない。 ・保護者アンケートのいじめに関する項目で、「C:あまりあてはまらない」評価が16名と他に比べて多いのが気になる。 ・保護者、生徒がC、Dの評価をしている人が少しいるのが気になる。今はLINE、SNSなど、周りが気付きにくいところがいじめにつながることもあるのではと思う。 ・人権・同和教育の参観日に、講演を聞かずに帰られた人が多かったのが残念でした。よい講演だったと思います。 ・アンケート結果を読んで、直感的に学校の雰囲気がどうなのか心配になった。先生と生徒、先生と保護者、生徒と生徒、コミュニケーション不足になっていないか心配である。コロナ禍だからこそ、重要な部分である。難しいことではあると分かっているが、気になってしまった。 ・コロナウイルス対策でイベント等の中止の影響か、学校の通学以外は生徒をほとんど見かけない。 ・先生方、保護者の方々のサポートも、生徒たちの力になっていると感じる。 ・生徒、教職員、保護者、地域住民と置かれた立場によって、見方、考え方、受け止め方は様々であって当然のこと。生徒は個々がほめられ、保護者は我が子が認められ、教師は自らの目標に近づく、地域住民は間接的ではあるが、自分が諸々の問題に直面したとき等、それぞれの状況によって評価は異なってくるものであるため、どのような評価であっても仕方がない。ただ、学校は小さな問題を見逃さない日々の厳しい目と、温かく受け止められる大らかな優しさを持って、今後より一層生徒理解・育成に努力してほしい。										学校の対応		・今年度は、生徒の学校生活の様子や教師間の指導の徹底を図るために、週に一回行われている生徒指導部会を週末（主に金曜日）に設定し、休日や週初めからの指導に役立てていけるようにしている。学年部の動きについては効率的になってきていると思われる。ただ、学年間での情報提供は、共通理解が十分に図られているとは言い難い。今後、各学年の生徒指導担当者の連携を図るとともに、各集会等を活用するなど、様々な場面で、生徒への効果的な啓発（指導の徹底）に努めていきたい。 ・月に一回、学校生活アンケートを実施しており、問題のある事案に対しては、学年部を中心に迅速に対応している。今後もこの体制を続けていく。 ・今年度より生徒一人に対して一台の端末（クロムブック）が配付されている。学習効果を高めるためのものであることや使用上のルールについては生徒に徹底している。また、セキュリティも強化されているため、大きな問題はないと考えている。しかし、生徒それぞれに自由になる端末（クロムブック以外）を持っており、家庭でのルールは決めさせているものの、実際の「使用用途や時間については把握ができない現状がある。学校として、情報モラル教育を継続して進めていくことと、学級活動や道徳科の授業を通して、良識ある行動がとれるように指導をしていきたい。 ・生徒の様子については、普段から授業中だけではなく、休み時間も見守りを続けている。しかし、どこかで見落としているに違いない。もう一度アンテナを張り巡らせ、生徒を見守っていきたい。また、教職員の指導の対応が変わらないように気を付けたい。教師と生徒だけではなく、教師と保護者等とのコミュニケーションの充実も図っていきたいと考える。 ・今年度は人権同和教育懇談会において、授業公開と人数を制限してではあるが講演会を実施することができた。ただ、今回の実践が学校生活の中で生かされているかという疑問に感じる部分がある。今後継続した指導の必要性を強く感じている。特別に何かをするというよりも、普段の生徒の言動などにも気を付けながら指導していきたい。											

特色 ある 学校 づく りの 推 進	愛さつ城辺の推進	あいさつがよくできる生徒を 育てている。	中 間 期	A	◇生徒会による「あいさつ運動」は、週1回の取組ではあるが効果的で、ほとんどの生徒が意欲的に取り組んでいる。地域においても進んでよりよい挨拶をする生徒が増えている。しかし、まだ個人差が大きく、日頃から気持ちのよい挨拶の向上が必要であると考えている。 ◆学校では、「あいさつ運動」をより工夫し、主体的で継続的な活動を進めていきたい。また、教育活動全体において、挨拶の大切さや意義について伝えていく必要がある。部活動での取組も大きな効果が期待されると思うので、挨拶のできる部活動集団を目指していきたい。	教職員	12	95%	12	8	1	0	0
		目標値:アンケート結果80% 以上肯定				保護者	12	96%	44	66	4	0	1
						地域住民	9	92%	22	12	3	0	1
	行事・諸活動の充実	感動のある学校行事や生徒 の変容・向上を図る活動が行 われている。	中 間 期	A	◇95%以上の回答が肯定的であるため、評価をAとした。今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症予防対策を第一に考えた上で行事を開催しているが、昨年度よりも制限は少なくなっている。精選され凝縮した行事ではあったが、制限の緩和から思った通りに開催されたためではないかと考える。また、生徒は精選された行事だからこそ集中して取り組み、充実感を感じることができていると思われる。 ◆今後の状況によっては、今以上に制限されて開催になる可能性が高いが、どのような形になっても生徒が主体的に考え、活動できるようサポートをしてい かなければならない。	生徒	13	97%	84	50	3	1	1
		目標値:アンケート結果80% 以上肯定				教職員	13	95%	9	10	1	0	0
						保護者	13	97%	38	72	3	0	2
	地域との連携	情報発信や参観日、懇談会 などを通して開かれた学校づ くりを実践している。	中 間 期	A	◇9割以上の回答が肯定的であるため、評価をAとした。昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症予防のため、PTA総会の書面開催や参観日の中止など、学校の様子を見ていただく機会は減っているものの、各種通信やホームページにより、学校行事はもちろん、普段の授業の様子等、様々な教育活動をそ の都度配信することで、幅広く情報発信をすることができている。 ◆今後もこまめにホームページの更新を行い、学校や学年からの各種通信とともに、学校生活や学校行事、授業の様子、生徒会活動、部活動など、教育活動 の様子を幅広く発信していく。また、今後の状況にもよるが、愛媛CATVの協力も得ながら、学校行事の様子についても発信していきたいと考えている。	地域住民	10	97%	8	20	1	0	9
		目標値:アンケート結果80% 以上肯定				生徒	14	96%	86	48	5	0	0
						教職員	14	100%	14	6	0	0	1
						保護者	14	98%	44	69	2	0	0
						地域住民	11	97%	18	18	1	0	1
						地域住民	12	94%	12	20	2	0	4
					生徒	15	91%	91	36	12	0	0	

学校運営協議 会委員の所見	・このカテゴリーは毎回高評価だと思うが、アンケートのAとBの割合は昔の方がよかったように思う。 ・学校外で会った時でも、生徒たちは、よく挨拶をしてくれる。挨拶はもっと高い水準で達成できていたと思う。 ・「あいさつマッチ」はすばらしい。しかし、それ以外の場所(学校外では特に)で挨拶に反映されていない気がする。保護者や地域のアンケートでもそのことが指摘されている。「あいさつ」が城辺中学校の特色とはまだ言えないのではないか。改めて、城辺中学校の特色とは何かを考えてみる必要がある。 ・学校が配信しているホームページについては日々更新されており、学校の様子が分かりやすくなっている。校外で挨拶することについては、マスクを着用していることもあり、誰にでもというのは少し難しいように思う。 ・ホームページや学校通信等で学校の様子がよく分かってありがたい。 ・生徒に直接かわることはできていないが、学校ホームページの学校日記で部活動に熱心励む生徒たちを見ると、応援したくなる。 ・コロナの影響で活動も制限されていることが残念であるが、形を変えて実施ができればと思う。「ピンチをチャンスに」 ・愛南町にある中学校ごとに特色があると思うので、中学校ごとの特色が分かる発表会があるとよい。生徒達も他の中学校のことを知れて、刺激になるのではないかな。地域を知る等の授業があるようなら、地域おこし協力隊の話や、東京から移住して愛南町がどう見えるかなど、生徒たちに知ってもらいたい。 ・現在の社会の現状化においては、特別なことばかりで、今まで以上に様々なことを進化、発展させるべく新たな何かを見付けることは難しいのではないかな。そのような中、学校目標を基に、教師、生徒がそれぞれの立場において堅実に進めていき、コロナ禍が収束した折にただちに実践できるよう、蓄えを地道に継続しておけばよいのではないかな。	学校の対応	・今年度も生徒会役員が中心となって、毎週水曜日にあいさつ運動を行っている。マンネリ化を防ぐために、単なる学級対抗だけではなく、部活動や縦割りブロック班など、工夫を凝らして継続している。学校内での挨拶は礼儀正しく元気よくできているように感じる。地域からは「できている」という声が多いが、全てがというわけではないので、挨拶することが当たり前となるよう、継続して指導を続けていきたい。 ・学校の状況を知っていただく意味でも、情報発信は重要であるとする。今後もホームページや学校通信等を通して、学校の様子を知らせていく。また、今年度はできる限りCATVに連絡をし、協力を仰いでいる。 ・コロナ禍が続いているため、地域との連携が取れない現状がある。もう一度今年度の計画を見直し、形を変えてでもできる限りのことを実施していきたいと考えている。
------------------	--	-------	---

健康・安全教育の推進	健康教育の推進	食育や保健指導を通して、健康的な生活をしようとする生徒を育てている。	中間期	A	◇9割以上の回答が肯定的であるため、評価をAとした。食育は、授業や食育だよりの掲示等を通して、生徒へ正しい食生活についての意識付けを行っている。保健指導は、呼び掛けや保健だより、保健指導資料を通して感染症予防への啓発を行っているが、十分ではない場面も見受けられる。 ◆給食時間の教室訪問や授業、掲示物を通して、今後も継続的な指導を行っていく。 ◆継続した個人健康観察の実施に加え、指導資料等の活用や機会をとらえての放送など、感染回避行動の習慣化を図る。	教職員	15	95%	10	9	1	0	0
		保護者				15	97%	27	83	3	0	2	
		地域住民				13	100%	7	21	0	0	10	
		生徒				16	91%	80	46	9	4	0	
	防災教育の推進	防災教育を進め、安全・防災意識の高い生徒を育てている。	中間期	A	◇生徒、保護者、教職員すべての回答の肯定率が9割以上であるため、評定をAとした。日頃から生徒や教職員は、自らの命を守る意識を高く持っていることが考えられる。 ◇全校で一斉に行う避難訓練は2回実施したが、生徒は迅速な行動がとれている。また、学年によって起震車体験や運搬訓練、保健体育での着衣水泳など、できる範囲で防災意識を高める活動を行ってきたことが、肯定意見につながっていると考ええる。 ◆今後は、様々な設定をした避難訓練の実施や交通安全、洪水・土砂災害等に対する安全意識の向上を図り、安全教育が幅広く確実なものとなるよう指導が必要である。また、単なる訓練で終わることがないよう、状況に応じて主体的な行動がとれる生徒を育成していきたい。 ◆今回の起震車体験は、学校運営協議会委員の協力を得て、地域住民にも参加をしていただいた。これをきっかけとして、地域と共にある訓練の在り方を考え、深まりのある防災教育を実施していきたいと考える。	教職員	16	100%	12	8	0	0	1
		保護者				16	97%	29	80	3	0	3	
		地域住民				14	100%	11	21	0	0	6	
		生徒				17	96%	97	37	5	0	0	
	部活動の充実	部活動に進んで参加し、自主性・協調性・責任感・連帯感等の高い生徒を育てている。	中間期	A	◇今年度も昨年度に引き続き、制限のある中での部活動練習期間があった。しかし、昨年度よりもそれぞれの部活動で意欲的な取組が多かったように思う。その要因としては、やはり総体の開催が大きい。目標を持った活動が、部活動の充実につながることを実感した。部活動を通して、規律ある学校生活の基盤を育ていけるよう支援していきたいと思う。 ◆保護者・生徒において概ね高い評価ではあるが、中には低評価も見られる。集団づくりの部分で課題があると考ええる。また、今後も生徒数減少となる中で、部活動の編成についても考えていかななくてはならない。今後も部活動ガイドラインに沿った取組を続け、充実した活動となるように配慮していきたい。	教職員	17	100%	13	7	0	0	1
		保護者				17	95%	37	71	4	2	1	
		地域住民				15	100%	13	17	0	0	8	
		生徒				18	96%	110	24	3	2	0	

学校運営協議会委員の所見	・「健康・安全」の最重要課題は、コロナ対応である。1学期は生徒も教師も「コロナ慣れ」の状態になり、あまり意識がなかったように思う。特に「密」についての指導ができていないように感じる。 ・コロナ禍のため様々な制限があるとは思いますが、学校では、生徒が伸び伸びと活動できることを願っている。 ・今できる学校としての取組、推進は大変よく頑張っていると感じる。生徒数は減少しているものの、一人の教師にかかる負担は、以前よりも多岐にわたっており、大変苦労されているのではないかと思います。感謝しかありません。 ・起震車体験に参加させていただきありがたかった。震度7の地震が実際に起きれば、家具の固定も役に立つかどうかなど考えさせられた。自分自身が防災意識を高めるよい機会となった。 ・防災学習もできるかどうか。しかし、地震や水害等、とても身近な問題になっているので、共に学んでいけたらと思う。(コロナに対する正しい学習も) ・警報の意味、避難指示の意味を理解してほしい。 ・コロナ禍の中で、防災教育や部活動の充実は大変厳しい状況であると思われる。2学期以降、運動会もあると思うが、コロナウイルスに感染しないように今後も努力を続けてほしい。 ・部活動に対する保護者の思いと、現実とのギャップがあるように感じる。コロナ禍での対応や社会体育化、時間外労働など様々な問題があるとは思いますが、保護者との連携強化が必要であると感じた。	学校の対応	・養護教諭からは、新型コロナウイルス感染症予防対策について、様々な資料が提供されている。ただ、生徒も教職員もコロナ禍が長期間となり、深刻さが薄れてきており、(身近なところに感染者がいないため、危機感に欠ける。)感染予防対策を頭では分かっているものの、徹底しきれていない現状がある。再度、感染症予防対策の必要性について考え、共通した指導を行っていきたい。 ・起震車体験をする際、学校運営協議会委員の協力を得て、一部ではあるが地域の方にも参加していただいた。体験活動であっただけに、この試みは大変有意義だったと感じている。今後も状況次第ではあるが、地域と一体となった防災学習に努めていきたい。 ・防災学習については、まだ取組が甘い。避難訓練は実施しているが、地震対応が中心である。昨今、大雨による水害が日本各地で発生している現状がある。今後は広く防災学習に取り組んでいく必要がある。また、いつどのようなときに災害が起こるかは分からないため、防災教育については継続して進めていく。 ・部活動の運営に関しては、年々厳しい状況となっている。生徒数の減少から、再編が急務である。ただ、部活動の選択肢が減ることは、今後の学校運営上もダメージが大きくなる。慎重に話し合いを持ち、対応策を考えていく。 ・コロナ禍での対応の面もあるが、現在は様々な規制があり、部活動指導も難しいものとなっている。現状を生徒や保護者、地域の方々にお伝えし、理解を求めていく。
--------------	--	-------	--